

2018年
6月23日(土)

⇒8月26日(日)

開場式・内覧会

6月22日(金)14時から

阿部展也

—あくなき越境者—



①大辻清司《阿部展也ポートレート》一九五〇年

新潟から世界へ—

「あくなき越境」を続けた奇才・阿部展也あべのぶやの全貌を紹介。

新潟県五泉市出身の阿部展也(あべ・のぶや/本名:芳文/1913~71年)は、1937年、詩人で美術評論家の瀧口修造との共作による詩画集『妖精の距離』で一躍注目され、画家として本格的なスタートを切りました。また、写真家としても、雑誌『フォトタイムス』を中心に旺盛な発表を行い、特に戦前期の日本写真史において注目すべき足跡を残しています。

戦時中は陸軍報道部写真班員として徴用され、フィリピンに従軍。記録写真の撮影とともに、軍が宣撫工作の一環として発行に関わった雑誌『みちしるべ』の表紙絵なども手掛けました。

戦後、画壇に復帰した後はキュビズムやシュルレアリスム、アンフォルメル、幾何学的抽象へと目まぐるしく画風を変化させました。また、国際造形芸術連盟の執行委員を務めるなど、グローバルな文化交流の最前線に立つ機会も多かった彼は、世界の新しい美術潮流にいち早く接し、それらを貪欲に吸収するだけでなく、雑誌への寄稿等を通じて日本に紹介する役割も担いました。

画家、写真家、評論家、中世墓石彫刻の研究者等々、様々な顔をあわせ持ち、58歳でローマにて客死するまで、世界を所狭しと駆け回った阿部展也。その生き様は、まさに「あくなき越境者」と呼ぶべきものであったといえましょう。

本展は、新潟市美術館が所蔵する阿部作品を核として、全国の公立美術館や個人の所蔵作品、関連作家の作品などにより構成。併せて、近年の調査で新たに所在が明らかになった、戦前の紙焼き写真や大量の制作メモなど、初公開の作品・資料もご紹介します。

第1章 出発—〈妖精の距離〉と前衛写真

1932—41年



② 詩画集『妖精の距離』より《蝸牛の劇場》1937年、新潟市美術館



③ 《夜の目》(『フォトタイムス』1939年4月号掲載)

独学で絵画を学んだ阿部芳文(展也)は、1937年詩人で美術評論家の瀧口修造との共作詩画集『妖精の距離』で一躍注目を浴びることとなった。また、写真家としても、他作家との協働や大陸での取材などを通じて、才能を発揮している。一方、戦中のアトリエ焼失で、この時期の阿部作品はほとんど現存していない。

★初公開★

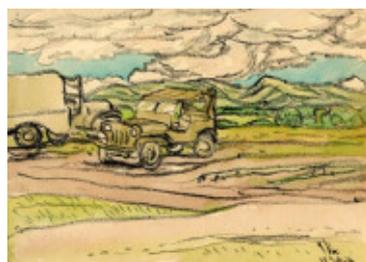
雑誌『フォトタイムス』1938年6月号表紙写真
(オリジナルプリント)

第2章 フィリピン従軍と戦後の再出発

1941—47年



④ 『みちしるべ』表紙原画)1943年、愛知県美術館



⑤ 《フィリピン時代スケッチ》1946年、新潟市美術館

1941年12月、陸軍報道部写真班員としてフィリピンへ従軍。記録写真のほか、陸軍が発刊に関わった雑誌『みちしるべ』の挿画なども手掛けた。敗戦後の抑留生活中も、心象風景や収容所周辺の様子を、鉛筆や水彩絵具で描いた。46年12月に復員し、間もなく画壇にも復帰した。

★新潟初公開★ 現存する貴重な戦中作品、
『みちしるべ』第5号(1943年12月)表紙原画

第3章 人間像の変容—下落合のアトリエにて

1948—57年

1948年、「阿部展也」名での作品発表を開始。東京都新宿区下落合に新たに構えたアトリエは、写真家の大辻清司ら若い芸術家の集う場になった。49年には西村敏子と結婚し、長男が誕生。新たな環境で取り組んだテーマは「人間」であった。戦場での極限状態を思わせる《飢え》やユーモラスな《花子》など、食欲にさまざまな表現に挑戦している。53年にはインドに長期滞在し、現地の暮らしや建造物をスケッチと写真に収めた。

★新潟会場のみ★ 創作の秘密が詰まった《制作メモスケッチ》322点を一挙公開！



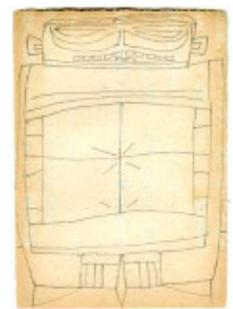
⑥ 《花子》1949年、富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館



⑦ 《飢え》1949年、神奈川県立近代美術館



⑧ 《顔、うしろの顔》1957年、板橋区立美術館



⑨ 《制作メモ・スケッチ》1955—57年頃、新潟市美術館

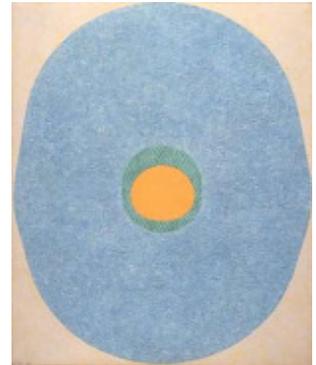
第4章 技法の探究から「かたち」回帰へ

—エンコースティックを中心に 1957—67年

阿部は1957年9月、国際造形芸術連盟の総会への出席を皮切りに、海外を飛び回るようになり、作品発表、世界各国の画家との交流、中世東欧文化の研究などに取り組むようになる。62年以降は単身ローマに定住した。一方、作品は抽象表現へと一気に変化。蜜ロウと絵具を調合し加熱しながら画面に定着させる技法「エンコースティック」により、多彩な表現を探究した。



⑩
《Good by》1961年、新潟市美術館



⑪
《作品(ECHO GREEN)》
1964年、BSN新潟放送
(新潟市美術館寄託)

★みどころ★ 次々に変化する表現！

扱いの困難な画材から生まれた繊細な色彩と質感は、実物でしか味わえない。

幕間 阿部展也の交友、阿部展也によるプロデュース

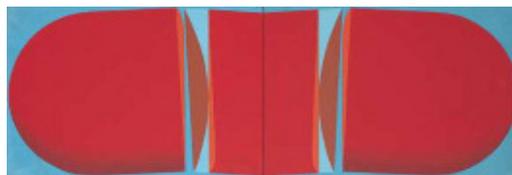
戦時中に培った英語力を活かし、世界各国の画家たちと交流を深めた阿部は、最新の美術動向を雑誌・新聞で積極的に日本へ向けて発信した。このコーナーでは、阿部が注目した画家のうち、アメリカ社会派リアリズムの画家ベン・シャーンと、画面に穴を開けた絵画で知られるルーチョ・フォンタナを、阿部旧蔵の作品で紹介。加えて、阿部が企画に関わった「現代イタリア絵画展」(BSN新潟美術館、1964年)出品作、阿部を師と仰ぎ多大な影響を受けた美術家・宮脇愛子、イタリア時代を共にした彫刻家・豊福知徳の作品を展示する。

第5章 未完の「越境」

1968—71年



⑫
《作品》1968年、浜松市
美術館



⑬
《R-44-ROMA》1970年、新潟市美術館

1968年以降、阿部は新たな画材として、速乾性・耐候性に優れ、扱いやすいアクリル絵具を導入。色と形を自在に組み合わせ、国際的な絵画動向とも呼応する、幾何学的抽象絵画を発表した。71年『芸術新潮』で「遥かなりイタリアの10年」の連載が始まり、イタリア時代の画業にも評価の光が差し始めた矢先、58歳の若さで急逝した。

★みどころ★

色鮮やかで洗練された構成の数々。「あくなき越境」の末にたどり着いた阿部芸術の到達点！

本リリースに掲載の画像は、本展をご紹介いただける場合に限り、データ提供が可能です。

基本情報

展覧会名	阿部展也—あくなき越境者
会場	新潟市美術館 企画展示室
会期	2018年6月23日(土)～8月26日(日) 57日間
開館時間	午前9時30分～午後6時(券売は閉館30分前まで)
休館日	月曜日(ただし7月16日・8月13日は開館)、7月17日(火)
観覧料	前売 一般 800円 当日 一般 1,000円(800円) 大学・高校生 800円(600円) 中学生以下無料 ※()は、20名以上の団体、リピーター割引料金 ※障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方および一部の介助者は無料
前売券	<u>販売期間5月26日(土)～6月22日(金)</u> 【販売所】新潟市美術館、新潟市新津美術館、新潟県立近代美術館、新潟県立万代島美術館、hickory03travelers、シネ・ウインド、セブンイレブン(セブンチケット)、インフォメーションセンターえん
主催	新潟市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
共催	BSN新潟放送、TeNYテレビ新潟
協賛	ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
助成	芸術文化振興基金
後援	五泉市教育委員会

関連イベント

①～④は事前申込み不要

<p>①講演会 7月15日(日) <u>なぜ阿部展也は日本近代美術史上</u> <u>かくも重要な存在なのか</u></p> <p>講師：大谷省吾(東京国立近代美術館美術課長) 専門は日本近代美術史。特に、シュルレアリスムの日本における受容と展開。「地平線の夢 昭和10年代の幻想絵画展」(2003年)で倫雅美術奨励賞受賞。著書に『激動期のアヴァンギャルド シュルレアリスムと日本の絵画 1928-1953』(国書刊行会、2016年)等。</p> <p>14時～(約90分)、先着80名、美術館講堂</p>	<p>④担当学芸員によるギャラリートーク</p> <p>企画展示室にて(要：当日の観覧券) 6月24日(日)、7月8日(日)・29日(日) 8月12日(日)・26日(日) 各14時～(約30分)</p>
<p>②美術講座 7月21日(土) <u>日本写真史の一系譜</u> <u>阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄</u></p> <p>講師：松沢寿重(新潟市美術館主幹/学芸員) 14時～(約90分)、先着80名、美術館講堂</p> <p>③美術講座 8月18日(土) <u>エンコースティックと阿部展也</u></p> <p>講師：上池仁子(新潟市美術館学芸員) 14時～(約90分)、先着80名、美術館講堂</p>	<p>⑤ワークショップ まる、からはじめて</p> <p>7月1日(日) 10時～12時半</p> <p>阿部展也展に展示している「まるい」作品をヒントに、美術館の大きなガラス窓を飾ります。</p> <p>対象：小学生～大人 20名 参加費：無料 ※未就学児の参加不可 ※小学校低学年の参加には保護者の同伴が必要です。 ※高校生以上は阿部展也展の当日観覧券が必要です。</p> <p>申込み方法：<u>6月15日(金)必着</u> 往復はがきで①参加者全員の氏名と年齢、②代表者の電話番号と住所、③「まるワークショップ」をご記入の上、美術館へ申し込みください。はがき1通につき4名まで記入可。応募多数の場合は抽選。</p>

新潟市美術館 (担当：松沢寿重、上池仁子、松本美樹)

〒951-8556 新潟市中央区西大畑町 5191-9

TEL: 025-223-1622 FAX: 025-228-3051 E-mail: museum@city.niigata.lg.jp

阿部展也—あくなき越境者

開場式取材・チケットプレゼント・記事掲載申込書 (FAX 専用)

FAX 送信番号：025-228-3051 新潟市美術館宛

- ◆開場式(2018年6月22日午後2時～)の取材、記事掲載時の作品写真(画像データ)及び、読者プレゼント招待券を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、FAXでお申し込みください。
- ◆記事内容は必ず事前に確認させていただきますよう、お願いいたします。
- ◆チケットプレゼントの提供は1媒体につき10組20名様を上限とし、本展をご紹介いただける場合に限らせていただきます。
- ◆読者プレゼントの宛先は貴社とし、抽選、当選者への発送は貴社にてご手配ください。当館から当選者への発送はいたしません。
- ◆掲載された媒体は、1部ご恵与ください。

○をおつけください	取材希望 ・ チケットプレゼント希望 ・ 記事掲載希望
貴社名	
ご担当者名	
ご連絡先	
ご住所 (チケットプレゼント送付先)	〒
メールアドレス(データ送付先)	
ご媒体名	
取材予定日	6月22日開場式・開場式以降(月 日 時頃)・取材予定なし
取材スタッフ	計 名(内カメラクルー 名)
掲載・放映予定日	月 日
チケットプレゼント希望	組 枚 ※1媒体につき10組20名様まで
通信欄 ※画像を希望する場合は、該当する画像の番号を記してください。	